

学校と医療機関、福祉機関が連携した発達障害児支援を考えたシンポジウムは22日、永平寺町の県立大永平寺キャンパス



学校 医療機関 福祉機関

## 永平寺町でシンポジウム

# 発達障害支援連携探る

発達障害児支援を考えるシンポジウムが22日、永平寺町の県立大永平寺キャンパスであり、切れ目のない支援へ学校と医療機関、福祉機関がどう連携していくべきか約90人が探った。

日本発達障害ネットワーク福井が主催。学校、医療、福祉の専門家が話題提供し、同ネットワークで県立大学術教育センターの清水聡教授（発達心理学）、福井大大学院の新しい井豊吉准教授（特別支援教育）を交えて討論した。

県特別支援教育センターの大石橋義治指導主事は「学校現場ができる支援には限界がある」と述べ、診断して投薬す

る医療機関、保護者を支える福祉機関と情報共有して課題を整理するキーパーソンの必要性を指摘。県こども療育センターの津田明美次長（小児科医）は、知的障害を伴わない発達障害児の支援はボランティアで成り立っている部分が大いとして、善意に依存しないシステムづくりを訴えた。

県発達障害児者支援センタースクラム福井の野村昌宏副センター長（社会福祉士、精神保健福祉士）は「学校内ではおとなしいが家の中でパニックを起こす場合がある」として、学校教育と福祉的な支援の役割分担が課題だとした。（小林真也）